

## メキシコ政治情勢（2025年11月）

### 〔概要〕

#### 【内政】

- 1日、ミチョアカン州ウルアパン市において実施された死者の日関連のイベントにおいて、同イベント出席中のマンソ市長が銃撃され、死亡した。
- 3日、連邦下院に提出されていた輸出入関税法改正案が法令で定められた審議期間である45日を超過したことを受け、連邦下院経済・貿易・競争力委員会が審議期間の延長を申請し、これが認められた。
- 3日、エル・フィナンシエロ紙は大統領支持率等にかかる世論調査結果を発表。シェインバウム大統領の支持率は70%。
- 5日、女性省は、性加害を重罪とみなし、全国で統一的な罰則を適用することを掲げる「性加害に対する包括的対策」を発表した。
- 6日、連邦下院は、2026年歳出入予算案を賛成多数で可決した。
- 13日、最高裁は判決において、サリナス・プリエゴ氏率いるサリナス・グループが提出していた税の支払いに関する法的救済措置を却下した。
- 15日、「メキシコZ世代」と称する団体が独立記念塔から憲法広場（ソカロ）において大規模なデモ行進を行った。
- 20日、シェインバウム大統領は、ソカロで実施されたメキシコ革命記念日の式典に出席した。
- 30日、連邦上院はゲルツ連邦検察庁長官の辞任を賛成多数で承認した。

#### 【墨米外交】

- 3日、シェインバウム大統領はメキシコを訪問中のロリンズ米農務長官と会談し、農業分野の技術協力と商業活動促進について協議した。
- 4日、シェインバウム大統領は、カルテル掃討に向け米軍がメキシコへの作戦を実施するという報道に関し、これらの作戦が実施される予定はないと否定した。

#### 【その他外交】

- 3日、ペルー国内で刑事訴追されているチャベス元ペルー首相の亡命申請をメキシコ政府が受理したことに反発し、ペルー政府は、メキシコとの外交関係断絶を発表した。
- 7日、シェインバウム大統領は、メキシコを公式訪問したマクロン仏大統領と会談した。
- 9～10日、デ・ラ・フエンテ外相は、コロンビアで開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）・EUサミットに、シェインバウム大統領代理として出席した。
- 11～12日、デ・ラ・フエンテ外相は、カナダで開催されたG7外相会合に出席した。

- 14日、墨外務省は、第29回ラ米カリブ地域核兵器禁止条約機構（OPANAL）総会を開催した。
- 18日、カナダ政府は、外国旅行にかかる安全情報を更新し、カナダ国民に対し、メキシコ全土で「高い警戒」を払うよう呼びかけた。
- 25日、シェインバウム大統領は、メキシコを訪問したカストロ・ホンジュラス大統領と会談した。
- 28日、シェインバウム大統領は、デ・ラ・フエンテ外相が手術のため一時休職をすることを発表した。

[本文]

【内政】

1 ミチョアカン州ウルアパン市長への銃撃事件

(1) 1日、マンソ・ミチョアカン州ウルアパン市長は、同市内で実施された死者の日関連のイベント出席中に銃撃され、死亡した。狙撃犯は当局によりその場で射殺された。3日、シェインバウム大統領は、早朝記者会見において同事件を非難しつつ、「麻薬戦争」を繰り返さない旨述べた。

(2) 9日、シェインバウム大統領は、マンソ市長の銃撃事件を受けて「ミチョアカン計画」を発表した。本計画は12の軸に基づき100項目のアクション・プランが盛り込まれており、570億ペソが投じられる。

2 輸出入関税法案の審議期間の延長

3日、連邦下院に提出されていた輸出入関税法改正案が法令で定められた審議期間である45日を超過したため、連邦下院経済・貿易・競争力委員会は連邦下院政策調整委員会に審議期間を2027年8月31日まで延長する旨申請し、これが認められた。同法改正案には、自由貿易協定を締結していない国から輸入された約1400品目の一般関税率を大幅に引き上げることが盛り込まれた。(なお、12月10日、同法案は上下両院で可決され、2026年1月1日から施行されることとなった。)

3 大統領支持率等にかかる世論調査結果

3日、エル・フィナンシエロ紙は大統領支持率等にかかる世論調査結果を発表。シェインバウム大統領の支持率は70%。概要は以下のとおり。

(1) シェインバウム大統領の取組を支持するか。

ア 支持する : 70% (前回(9月、以下同じ) 73%)

イ 支持しない : 30% (前回27%)

ウ 分からない : 0% (前回 0%)

(2) 10月に発生した複数の州における豪雨災害について、シェインバウム政権の以下の対応を如何に評価するか。

ア 救援・救助

(ア) とても良い、又は良い : 59%

(イ) とても悪い、又は悪い : 37%

(ウ) 良くも悪くもない : 4%

(エ) 分からない : 0%

イ 洪水被害の清掃と復旧作業

(ア) とても良い、又は良い : 56%

(イ) とても悪い、又は悪い : 40%

(ウ) 良くも悪くもない : 4 %

(エ) 分からない : 0 %

ウ 被災者支援

(ア) とても良い、又は良い : 53 %

(イ) とても悪い、又は悪い : 42 %

(ウ) 良くも悪くもない : 4 %

(エ) 分からない : 1 %

エ 大統領の被災地訪問

(ア) とても良い、又は良い : 50 %

(イ) とても悪い、又は悪い : 45 %

(ウ) 良くも悪くもない : 4 %

(エ) 分からない : 1 %

(3) 今回の豪雨は予測できたと思うか。

ア 予測できた : 41 %

イ 予測不可能であった : 58 %

ウ 分からない : 1 %

(4) メキシコは自然災害対応のための基金にどう出資すべきか。

ア より多く出資するべき : 72 % (前回 (2020年10月) 70 %)

イ 出資を少なくするべき : 7 % (前回 6 %)

ウ 同じで良い : 22 % (前回 18 %)

(5) 以下の大統領に期待される資質についてシェインバウム大統領を好評価するか。

ア 誠実さ : 59 % (前回 (9月、以下同じ) 64 %)

イ リーダーシップ : 59 % (前回 66 %)

ウ 結果を出す能力 : 47 % (前回 54 %)

(6) 大統領の人々への共感力

ア とても良い、又は良い : 63 %

イ とても悪い、又は悪い : 32 %

ウ 良くも悪くもない : 4 %

エ 分からない : 1 %

(7) 各分野におけるシェインバウム政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い : 52 % (前回 (9月、以下同じ) 53 %)

(イ) とても悪い、又は悪い : 45 % (前回 43 %)

イ 汚職

(ア) とても良い、又は良い : 13 % (前回 19 %)

(イ) とても悪い、又は悪い : 82 % (前回 75 %)

#### ウ 治安

(ア) とても良い、又は良い： 37% (前回42%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 59% (前回53%)

#### エ 組織犯罪

(ア) とても良い、又は良い： 12% (前回20%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 85% (前回74%)

#### オ 社会保障

(ア) とても良い、又は良い： 81% (前回75%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 17% (前回20%)

### 4 性加害に対する包括的対策の発表

5日、女性省は、性加害を重罪とみなし、全国で統一的な罰則を適用することを掲げる「性加害に対する包括的対策」を発表した。シェインバウム大統領は、本計画は、手続きの迅速化、司法の強化及び性犯罪の罰則の統一化を目指すものと述べた。本計画は、シェインバウム大統領が前日に性被害を受けたことを踏まえ発表された。シェインバウム大統領は、加害者の男に対して刑事告訴を行った。

### 5 2026年歳出予算の可決

6日、連邦下院は、賛成355票、反対132票、棄権0票で2026年歳出入予算案を可決。成立された予算は大統領府に送付された後、交付され、2026年1月1日に施行される。

### 6 サリナス・グループへの税支払い救済措置の却下判決

13日、最高裁は、サリナス・プリエゴ氏率いるサリナス・グループが提出していた税の支払いに関する法的救済措置を却下した。これにより、同グループは、税金の未納分約480億ペソ（約4000億円）の支払い義務を負う。シェインバウム大統領は、支払いに応じない場合は、政府として法的措置を取ると述べた。

### 7 「メキシコZ世代デモ」の実施

15日、「メキシコZ世代」と称する団体が独立記念塔から憲法広場（ソカロ）においてデモ行進を行った。メキシコ市発表によると約1万7千人が参加。ソカロでは警察とデモ隊が一時衝突し、警察関係者100人を含む120人が負傷。シェインバウム大統領は、早朝記者会見において、「野党が今回のデモへの動員に約9000万ペソ（約7億円）の資金を投じた、Z世代のデモと称しながら参加者の多くは若者ではなかった」と強く批判した。また、20日の革命記念日にも「メキシコZ世代」と称する団体の二度目のデモが行われたが、公式発表によると同日のデモ参加者数は150人にとどまった。

## 8 シェインバウム大統領の革命記念日における演説

20日、シェインバウム大統領は、ソカロで実施されたメキシコ革命記念日の式典に出席した。大統領は、演説において、現政権の反対勢力である右派について、メキシコ革命以前に主流であった思想と比較し「強硬手段や超法規的措置を要求する者、極右や特権階級だけが享受する自由を主張する者たちは、メキシコの歴史もメキシコ国民も知らない」と批判した。

## 9 連邦検察庁長官の辞任

30日、連邦上院はゲルツ連邦検察庁長官の辞任を賛成多数で承認した。辞任の理由は、「友好国」への大使就任。これについて、野党議員は、ゲルツ連邦検察庁長官の辞任は、検察庁長官辞任要件となっている「重大な理由」には該当しないとしていた。検察庁長官の任期途中で辞任は異例。

### 【墨米外交】

#### 1 米農務長官のメキシコ訪問

3日、シェインバウム大統領はメキシコを訪問中のロリンズ米農務長官と会談し、農業分野の技術協力と商業活動促進について協議した。会談では、メキシコから米国への家畜輸出のための国境再開が優先事項として強調された。両者は、害虫対策、農業貿易の円滑化、家畜の健康管理への協力を再確認した。

#### 2 米軍によるメキシコに攻撃に関する米報道へのシェインバウム大統領反応

米報道機関NBCが、カルテル掃討に向け米軍によるメキシコへの作戦が実施されると報じたことについて、3日、シェインバウム大統領は、「米墨間には安全保障合意があり今後も合意の枠組みの中で協力を継続する、報道で指摘されているような作戦は行われたい」と否定した。

### 【その他外交】

#### 1 ペルー政府によるメキシコとの外交関係断絶の発表

ペルー国内で刑事訴追されているチャベス元ペルー首相の亡命申請をメキシコ政府が受理したことに反発し、3日、ペルー政府は、メキシコとの外交関係断絶を発表。メキシコ政府は、ペルー政府による一方的な外交関係断絶の措置に関して遺憾の意を表した。なお、メキシコ政府はペルー政府に確認した結果として貿易関係と領事関係は継続される旨発表した。

#### 2 マクロン仏大統領のメキシコ訪問

7日、シェインバウム大統領は、メキシコを公式訪問したマクロン仏大統領と大統領宮殿で会談した。両首脳は戦略的パートナーシップを再確認。両国は国際法、多国間主義、民主主義、ジェンダー平等といった価値を共有し、平和と国際秩序の維持に協力することを確認した。また、両国は経済、文化、教育、科学技術、環境分野、貿易・投資機会面での協力強化を強調した。さらに、2026年の外交関係樹立200周年を記念し、絵文書の相互展示を実施することを発表し、両国関係を新たな戦略的パートナーシップへと発展させることを約束した。

### 3 デ・ラ・フエンテ外相のCELC・EUサミットへの出席

9～10日、デ・ラ・フエンテ外相は、コロンビアで開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELC）・EUサミットに、シェインバウム大統領代理として出席した。墨外務省プレスリリースは、同外相の出席は、メキシコがCELCを主要な地域政治対話の場として深く重視していること、また欧州連合を地域外の戦略的パートナーとして重要視していることを反映したものであると発表している。

### 4 デ・ラ・フエンテ外相のG7外相会合への出席

11～12日、デ・ラ・フエンテ外相は、カナダで開催されたG7外相会合に出席した。また、同会合のマージンにおいて、ルビオ米務長官と会合し、安全保障分野における協力体制の進展について協議した。その他、同外相はインド、カナダ、英国、韓国の外相とそれぞれ会談した。

### 5 OPANAL総会の開催

14日、墨外務省は、第29回ラ米カリブ地域核兵器禁止条約機構（OPANAL）総会を開催した。総会では、2026～2030年までの理事会の新たなメンバーとしてドミニカ共和国とウルグアイが選出され、OPANAL及び他の核兵器地域との連携強化に関する決議が採択された。

### 6 カナダ政府によるメキシコの安全情報の発表

18日、カナダ政府は、外国旅行にかかる安全情報を更新し、カナダ国民に対し、メキシコ全土で「高い警戒」を払うよう呼びかけた。今回の安全情報引き上げは、メキシコ国内の複数の地域で報告されている犯罪活動の活発化と誘拐リスクの高さに応じたものとのこと。

### 7 ホンジュラス大統領のメキシコ訪問

25日、シェインバウム大統領は、メキシコを訪問したカストロ・ホンジュラス大統領と会談した。両首脳は、女性に対する暴力の根絶に向けた両政府の取組みを強調し、実質的な

平等を保証する公共政策の推進への決意を改めて確認した。また、ホンジュラス国内でメキシコが実施している社会福祉事業の成果を称賛した。

#### 8 デ・ラ・フエンテ外相の休職

28日、シェインバウム大統領は、デ・ラ・フエンテ外相が手術のため一時休職をすることを発表した。同外相の休職期間中は、ベラスコ墨外務省北米担当次官が外相の職務を代行する。